



万燈通信

平成30年7月20日発行

スマホ、インターネット等についての特集

一便利と危険のうらがえし② 休泊中の子どもたちを危険からまもるために一

<本校の実態>

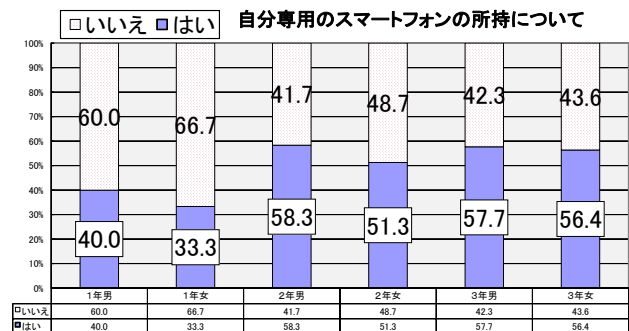
7月17日（火）13：30より、校長室において校医さん、PTA役員さん、教員で構成される学校保健委員会が開催され、保健委員会の3年生徒が「ネット利用と心身の健康について考えよう」というテーマで、素晴らしい発表を行ってくれました。（本日の集会で、全校生徒の前で発表）

ネット利用に関わっては、近隣でも昨年9月いたましい事件があっただけでなく、本校においても無料通信アプリLine（以下Line）による友だち同士のトラブルが起きています。このような事件やトラブルを防ぐために、本校では1学期の間に、日常の指導の他、警察による情報モラル講習会を実施したり、生徒会本部役員による「いじめのない学校や学級を作るための行動宣言」を出したりしています。

スマホはまず「自分で、使用目的が明確で、使用時間がコントロールできるまでもたせない」ことがお子さんを様々なトラブルから回避させるために市でも推進しています。「友だちがもっているから」とか、「もっていないと仲間に入れない」というのは、購入してもらうための理由のひとつに過ぎません。一方で、ライフスタイルの多様化により、「子どもの安全を守るために」持たせているというご家庭もあります。そのような状況で、スマホ使用のルールを各家庭の様子に合わせてしっかり作ってから使用させることで、様々な危険からお子さんを守ることに一定の効果があります。

そこで、保健委員の発表資料に基づいて本校の実態を記載します。

右の図のように、本校生徒のスマホ所持率は、全校で約50%で、学年が上がるにつれて上昇しています。また、Lineの使用については、2、3年の女子の割合が高く2年女子82%（男子69.5%）、3年女子80%（男子64.7%）となっています。その中で、心身への影響から、Lineを止めたいと思った生徒も2年女子37.5%、3年女子40%おり、心身の影響では、「視力が落ちた」「勉強をする気にならない」「睡眠不足」「やめることができない」



「友だちとの関係が悪くなった」等、身体的な影響の他、「無気力」や「人間関係悪化」を招くという実態もあります。また、ネット全般の使用時間は、平日1～2時間が最も多く31.4%、次に1時間未満20.8%、2～3時間18.9%と続き、5時間以上と回答している生徒も5.6%いました。

本校生徒は、男子30%、女子50%が家庭でルールがあり、主なルールは以下の通りです。

- ・1日30分、9時まで、テスト2週間前は1時間以内、動画を見すぎないなど時間制限について
- ・使用は親の許可をもらう、勉強したら使うなど使用できる条件について
- ・自分の部屋で使用しない、リビングで使用するなど使用場所について
- ・知らない人とLine禁止、課金禁止、怪しいサイトに繋がらないなど犯罪から守るために

以上から、スマホは各家庭の目的に応じて、正しく使用する分にはたいへん便利な道具ですが、その反面、本校生徒は次のような状況であることがわかります。

- スマホを使用することにより、身体や学習、友人関係で良くない影響を受けていると感じたり、課題を抱える経験をしたりしている生徒が44.4%いる。
- Line使用を止めたいと感じた生徒が、2、3年女子に多い。
- ネット利用のルールがない家庭は、男子70%、女子50%である。
- ネット使用の時間が長く、「ネット依存」が心配される生徒は男子に多い。

<全国の実態>

内閣府の「平成29年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」によれば、スマホ所有率は全国の中学生で58.1%だそうです。

スマホ・ネット利用が増えればトラブルも増えています。代表はスマホ依存症です。中学生以上は、「You Tube」の他に男子は「ゲーム」、女子は「SNS」の問題が多い傾向にあります。「You Tube」で動画を長時間見続けることで、学習など他のことができなくなったり、視力が落ちる、昼夜逆転する危険性が指摘されています。スマホゲームは、何かからの逃避行動で始まる子どもも少なくないそうです。保護者にしかられた、成績が落ちた、受験へのプレッシャーなどでゲームにはまっています。それは、ゲームの世界はやればやるだけ強くなり、実生活より手軽に自分の希望が実現可能だからです。Lineは、「既読」機能でメッセージを読んでいないことが伝わり、返事をしないと仲間から嫌われてしまうかも知れないと恐れる子どもが多くいます。それゆえ、やめどきがわからず、延々夜中まで続け、睡眠時間や学習時間が削られてしまいます。このように、保護者のチェック機能が働いていない家庭や「夜は9時まで」「1日1時間まで」等ルールがない家庭では、子ども自身が気づかないうちに、ネット依存になり疲弊してしまう事が起こります。

ネットいじめも全国的な話題になっています。Line等のアプリのグループで、大勢から一斉に悪口を送られたり、自分のメールが無視されたり、恥ずかしい動画や写真が公開されたりします。ネットいじめは記録が残り、転送・拡散も容易で追い詰められ、本人からの訴えがない限りわからないところが危険なところです。

ネットいじめから子どもを守るのは、保護者の監視とルールです。子どもに預けっぱなしにするのではなく、時々子どもと一緒にLineを確認するとか、ルールを一緒に考えることが大切かと思えます。なお、ネットいじめの他にもSNS関係で困った場合には、すぐに保護者や学校の先生など大人に相談するように日頃から話しておくことが問題を早期に発見し、解決に結びつけてくれます。また、厚生労働省の「SNS相談を行う団体」というページでは、外部団体による相談も受け付けてくれます。

<全国的なトラブル事例>

お子さんがスマホを使用している場合だけでなく、今後使用させようと考えている保護者の方も、スマホ使用には、様々なトラブルがあることを理解しておくことが重要です。スマホやネットで起こるトラブルは、特定の人だけが遭遇する問題ではなく、誰もが遭遇する可能性があります。総務省が公開している「インターネットトラブル事例集」にその詳細がありますので、一度ご覧ください。以下一部記載します。

- スマホの過度な使用による日常生活への支障
- 無料通信アプリでの悪口やからかい
- なりすまし投稿による誹謗中傷
- SNSやネットで知り合った人による性犯罪被害
- SNSなどへの投稿内容から個人が特定
- 旅行中の写真投稿や書き込みによる空き巣被害 等

まとめ

スマホ・インターネット等は、たいへん便利な道具であり、中学時代は使用しなくても、今後多くの生徒が使用すると考えられます。一方で、様々なトラブルもあり、それらは誰にでも起こりうることであり、どんなトラブルがあるかを理解した上で、保護者の監視とルールが子どもを守ってくれることを親子で再確認することが大切です。そして、困ったときには誰に相談するか、子どもたちにし

っかり伝えておくことが、トラブルの未然防止や早期解決につながります。長い夏休み、子どもたちをネットトラブルから守るために、改めて親子で話し合ってみてください。

さわやか休中生！ネット利用のルール

1. 健康を守ろう！（自分と友達）

- 利用時間を決める。（1日1時間！）
- 夜（ ）時以降は情報通信機器をみない。
- 寝る前に電源を切る。
-
-

2. 友情を守ろう！

- 自分が嫌なことはしない、書き込まない、見ない。
-
-

3. プライバシーを守ろう！

- 個人情報をネットにのせない。（画像、氏名、年齢）
-
-
-



保健委員会が作ったパワーポイントの一部